

今村復興大臣の熊本県訪問ぶら下がり会見
(平成28年10月16日(日) 15:09～15:17 於) 熊本県上益城郡)

1. 発言要旨

今日は、蒲島知事と会って、そしてこちらにも入りました。途中で商店街等も見えて、またNPOの人たちとも、また御支援した方々ともお話があつてきたわけですが、総論的に言うと来て良かったなという思いがいたしました。

やはり、百聞は一見にしかずといいますが、ハード面は順調に復興はしているものの、それ以降生活をどうやってもう一回再建していくか等々、正に人に関わる部分というのが大変重要だなという気がした次第であります。

知事からも予算の獲得等々で大変有り難いというような話もありましたし、またこれからもよろしくということでありましたけれども、いろんな仕組みの問題も含めてうまくいっている部分、あるいはうまく回すのが当然ということもありますから、そういったものを参考にしながら、今後も起きるいろんな災害等に対しても、前もっての準備、そして起きたときの迅速な対応、その後の支えといいますか、そういったことの参考にして、これからも復興庁としても単に後始末というのと何であります、それだけのハード面に限らずいろんな形でしなやかな国土づくり、そしてソフト面での充実といった政策の立案、遂行にこれから努力していきたいというふうに思っております。ちょっと話が大きくなりましたが、以上でございます。

あと、もう皆さん御覧のように、健軍商店街ではグループ補助金に大変助けてもらったという話がありましたし、是非皆様方にはやっぱり自分たちで自分たちの町を復興するんだということでやってくださいということで、頑張りますと言っていたきまして、大変元気が出ましたし、それから屋台村に行って、昼間だったんですけども大変なにぎわいで、もう何か一杯飲みたいような雰囲気をもったんですが、ああいう雰囲気の皆様方元気を出してやっていければいいと思います。

そういう意味で、良いコミュニティの場になっているのかなという気もしました。いずれまたちゃんとしたお店をつくるということではありますが、そういったところにも皮肉な話ですがあそこの屋台村で得たノウハウをうまく生かしてもらえればなという気もしたところであります。

それから、あと益城町の町並みを見ましたけれども、これも先般総務会で来たとき以来でしたけれども、見てみるとなかなか復興は進んでいないですね。特に住宅、もう壊れたままというところ

が非常に多いし、解体についても苦勞して、なかなか進まない、これはいろんな事情があるんでしょうが、そのままということも大変心が痛んだ気がいたしております。

できるだけ早く、これもこういう今のままでは良くないという思い、皆さん一緒だと思いますが、そのためにはできるだけ解体、そしてこの跡を更地にして、復興が進むようにどうやってやった方がいいのかということを真剣に考えなきゃいけないんじゃないかなというふうに思った次第であります。

それから、こちらでは先ほどお会いしたNPOの人たちも頑張っているなという気がいたしました。先ほども言いましたけれども、これから災害の後、復旧・復興していくときのこの支援の仕組み、そういったものをここだけの問題にしないで、あるいは東日本だけの問題にしないできちんとした整理をして、いろんなところで何が起きても直ちに対応できる、そういったことをつくっていく参考になればいいし、またそうしてくださいということで、皆様方こういった被災の後の復旧、復興、再生のソフト部門のパイオニアになってくださいということで、お願いを申したところであります。

そういうことで、いろんな意味で状況も刻々と変わっていきますが、常にしなやかなやり方で我々も国としてもやっていくということで頑張っていきたいというふうに思っております。

今日は復興庁の職員も一緒でしたが、彼らも大変勉強になったと言ってくれますので、良かったなというふうに思います。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 1点お伺いしたいのですが、地震の本震から今日で半年経ちまして、被害の実態がほぼ見えてきた状況になったんですが、その中で発災当初特別措置法をまとめる声が上がっていた状況の中で、今の段階でその特別措置法について必要性の有無をどのようにお考えでしょうか。

(答) 正直言うと、私はもうそこまでは今必要ないんじゃないかなという気がします。

というのは、これをつくるとある意味ではそれが一つの、何といいますかね、枠をはめるような格好にもなって、要件がここに合わないとか何とかなってくる。それよりも、もうここは柔軟に対応できる仕組みに残した方がいいんじゃないかと思います。

その代わり、しっかり予算等は確保するということで、これはそういうものがあれば安心ということなんでしょうが、例えば福島のように、時間がかかるようなものについては、そういったこと

も必要じゃないかなと思いますが、もうむしろ熊本の場合はてきばきと臨機応変にやって、一日も早く復興するんだということの方がいいんじゃないかというふうに私は思います。

(問) 先ほどNPOの方等は、正にその東日本大震災の教訓というのを熊本に生かしている事例を御説明されていたと思うのですが、復興庁として何か具体的に東日本大震災のこういうことであれば、熊本地震あるいは今後起こりうるかもしれない被災地支援に役立てるんじゃないかなと今日御視察されてお感じになったような部分というのはありますか。

(答) それは共通する部分があります。しかし、一方で東日本ではこうだったけども、こっちではまた状況が違うということもありますから、共通になる部分をベースにしながら、それを全国の皆さんにも、例えば自治体なりいろんなNPO関係の人たちにも一つのバイブルといいますかね、そういったものにして、後は臨機応変にやっていただくということになっていくんじゃないかなと思います。

そういう意味では今のお話でいきますと、東日本でやってこられた、そしてここで今やっていくというものの積み重ねというようなものが、これからの大きな力になるというふうに思っております。

また、そういう意味で我々もそういったNPOとの関係含めて、支援するところは支援していくということで、頑張りたいと思っています。

(問) 今伺ったバイブルというのが、今日午前中あったアーカイブということだと思えるんですけども、例えばその取組とか、あるいはその予算規模とか、そういったものの今決まっているものがあれば教えてください。

(答) いや、それは今回も含めて非常に勉強になりましたから、そういったことを生かして今後の復興庁の予算のつくり方、あるいは執行の仕方にも是非取り入れていきたいなというふうに思っています。当面はそんなにお金かかる話じゃないと思います。

(以 上)